

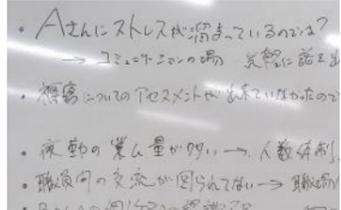
勉強会「高齢者虐待と身体拘束」について

勉強会「感染症対策」について

皆様からの意見



2月24日に高齢者虐待防止・身体拘束廃止委員会主催で勉強会を実施しました。前回の高齢者虐待と身体拘束に関する勉強会は、外部講師を招いての講義形式でしたが、今回は職員が日頃何を意識すべきか、何を理解しながら業務にあたるべきかをより主体的に学べるよう、グループワークによる事例検討という形式をとりました。事例検討に100%正解だという答えはありませんが、それぞれの職員が感ずる意見をグループ内で共有し、さらに全グループで発表しあうことで、職員一人ひとりが多角的に学び、理解を深めることができたかと思えます。



毎年このテーマでの勉強会が行われていますが、今後も継続していくことが、ご利用者の利益に繋がるものと感じております。  
(支援相談員 横田)

4月から感染症及び食中毒対策委員会の委員長になり、早速5月26日の標準予防策の勉強会を企画、実施しました。標準予防策とは、「感染の有無に関わらず、利用者様のケアに対して普遍的な予防策」です。文章で表すと難しく感じますが、その内容は、手洗いをしっかりと、エプロン、マスク、手袋を使用して、施設内感染を予防する基本的な対策です。



勉強会では排泄介助において、どの部分が汚れるかをグループで話し合い、手洗を実施し、落としきれない部分を実際に確認してもらいました。自分の中で分かっているつもりでも、実際に確認し合った事により、不備な部分が見えられたと思います。グループワークにより出てきた、疑問を生かし、感染予防の徹底に努めていきたいと思えます。  
(看護師 塩原)

\*施設を初めて訪問した者です。上履きに履き替えるのか、土足でいいか分からず、そのまま入ってしまった、上履きに替えるように案内いただき申し訳ない、と恐縮してしまいました。  
\*気を遣わせてしまい、申し訳ありませんでした。時々、素足で入られる方もいらっしゃり失礼させてしまうこともあります。分かりづらいと思いますので、表示のご案内等工夫いたします。  
\*のむぎで母を最期まで看ていただきました。苦しまず、母らしく居られて、本当によくしていただき感謝しています。

\*ありがたいお言葉頂戴しました。そのように思っていたら、更により良いケアを頑張ろう、と職員一同、気持ちを新たにしました。ありがとうございました。

# のむぎ VOL.12

2017.6.15発行



## 退任のご挨拶



社会福祉法人 雄仁会  
前理事長 川瀬 雄幸

**のむぎ理念**  
ともにより添い ともに笑い  
「人として生きる」を支えます

顧みれば、今から十六年前の平成十三年春、日本列島の高齢化が急速に進む中、介護人口の急増に対応することが重要課題であり、これ迄お世話になった社会への恩返しになると考えたのが、事業参加のそもそもの始まりでした。

諸々の準備期間四年、正式に社会福祉法人として認可されたのが平成十七年六月でした。

同十八年四月開所と決まった本施設ですが、当初は平成の市町村合併前で、長野県が松本西部圏に介護老人保健施設を設置することを決定しました。その中でも、波田町には総合病院もあり、この施設を設置するのにふさわしいという事で、波田町が引き受けた経緯がありました。

その後、波田町が断念したことにより、他に天然温泉を利用した場所での施設設置も内々定していたのですが、最終的には、「社会福祉法人雄仁会」が波田町に代わり建設、運営迄携わることになるとは、宿命であったのかも知れません。

当初は戸惑いもありましたが、決まった以上は行政の要請もあり、前向きに駒を進めることにしました。

この間、合併前の波田町、波田病院、議会の

方々を始め、松本西部圏域選出の理事・評議員の皆様、又、近隣地元町会関係団体の皆様方の並々ならぬご支援、ご協力を賜り、兎にも角にも超短期間での建物完成、開所オープン筆舌に尽くし難く、関係された多くの方々に深甚なる謝意とお礼を申し上げる次第であります。

お蔭様をもちまして、当施設も、役員それぞれ立場での努力の成果もあり、法人設立登記以来十二年余となり、経営基盤も概ねレールに乗って参りました。

現場の役員に贈る言葉は「健康第一」です。何をを行うにも「頭は低く、アンテナは高く」です。次に三つの条件。危機を乗り越えるには、これと決めたら 「一、頼るな 一、戻るな 一、恐れるな」

尚、のむぎの理念は「ともにより添い ともに笑い 『人として生きる』を支えます」ですが、経営理念としては、右の車輪は「支出」、左の車輪は原動力源「収入」、この両輪がきしむことなく共に回る立派な職場です。今後もそんな職場をめざし、役員が一体となって取組んでいってくださることを願っております。



Yujin 社会福祉法人 雄仁会

〒390-1401 長野県松本市波田9802-1

TEL.(0263)-92-7870 FAX.(0263)-92-8088

http://www.yujin-nomugi.or.jp/

E-mail : info@yujin-nomugi.or.jp

新任のご挨拶



社会福祉法人 雄仁会  
新理事長 小澤 基一

介護老人保健施設のむぎが平成十八年に開所してから早いものでまる十一年がたちました。この十一年の間、常務理事として施設の運営に係ってまいりましたが、このたび新理事会において理事長を拝命いたしました。

社会福祉法人法の改正に伴い医師である施設長にも理事役員に加わっていただき、また現場のチーフとして施設開所から勤務してこられた川瀬さんにも常務理事として新しく役員に加わっていただきました。

これからの老人介護事業を取り巻く環境は大変厳しい状況にあります。職員一同気持ちをひとつにして、ご利用者と地域の皆様に愛される施設づくりに努めてまいりたいと考えております。

役員の皆様をはじめ職員が誇れる施設の運営に関係皆様のご協力をお願いして就任の御挨拶とさせていただきます。

新任のご挨拶



社会福祉法人 雄仁会  
常務理事 川瀬 由緒

新しく、常務理事の命を承りました川瀬と申します。

私は当施設の開所以来、介護員としてデイケアで五年、入所フロアで六年、平成二十四年度からは副主任の役を仰せつかり、職員のとめ役としても奔走しながらご利用者と関わってまいりました。

この間、沢山の事を学ばせて頂きましたが、一番大切な事はやはりチームワークだと思えました。

ご利用者にとつて最良のご支援を提供する為に、医師をはじめ一丸となったチームケアに取り組むことが責務であり、またその質を上げる事が重要です。

職員一人ひとりが能力と意欲を最大限発揮できるようにするには、気持ちよく働ける職場環境を整えること、法人として将来のビジョンを示す事が重要な要素だと考えております。

超高齢社会となり、介護業界を取り巻く様々な問題がある中、簡単な事ではありませんがご利用者目線、現場目線を忘れることなく地域の皆様に御支持を頂ける施設を目指し、粉骨砕身の思いで取り組んでいこうと思えます。

立場は変わりましたが、しばらくは介護職として現場に立ちますので施設にお寄りの際はお気軽にお声掛けください。

今後とも、何卒宜しくお願い申し上げます。

新任のご挨拶



事務長 伊坪 和保

前任の岩岡秀行事務長さんに代わり、この4月から「老健のむぎ」にお世話になっております。

この3月までは、松本市立高綱中学校で4年間、施設管理の仕事をしていましたが、その前は松本市役所に勤務しておりました。

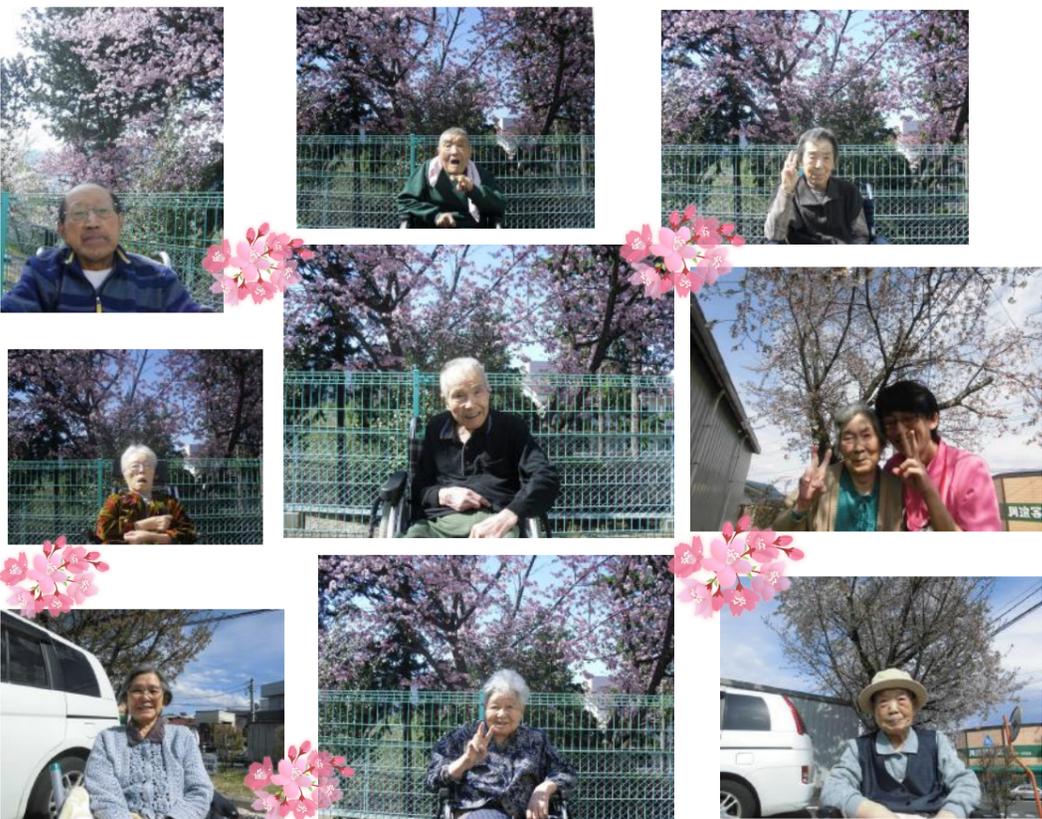
今年は、当施設の創設以来12年間の長きにわたり理事長を務めてこられた川瀬理事長から、小澤理事長に変更となる節目の年に当たりますが、その年に事務長の任を担っているというのも、何かの縁と思っております。

超高齢社会がますます進む中、介護老人保健施設の重要性もさらに増してきていますが、介護報酬マイナス改定や、介護保険サービスの自己負担割合の引き上げなど、私たちを取り巻く環境は、より厳しさを増しています。

そんな状況下においても、ご利用者、ご家族の皆様が安心して気持ちよく当施設をご利用いただけるよう、職員一丸となって明るくさわやかな施設作りに取組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

お花見

今年ものむぎ敷地内の桜が開花しました。桜を楽しむに待っている方もおり、心地よい風に当たりながら、季節を感じていただきました。



新入職員のご紹介



介護員 白澤 聖南

私は今年度「のむぎ」に就職させていただきました。仕事をしていく上で、様々な価値観・介護感を感じることがあります。人によっては当たり前のように違い、尊敬したくなる考え方の人もいます。その中で自分なりの介護感を持ちたいと思います。

楽しみにしていた「よもぎ餅作り」の時間がやってきました。

時間通りに皆さんフロアに集まり、いつもとは違う席順でちよつと景色が変わります。職員がセッティングを行い、気の早いご利用者は作る準備万端です。

ホットプレートがほどよい温度になり、さあ手作りおやつスタートです。よもぎを混ぜ込んだ生地をホットプレートに流します。ジューっといい音がしています。

すすんで焼いてくれるご利用者、焼きあがるのをじっと見守りながら待っているご利用者。

「温度はこれくらいでいいのかな？」



出来たてホヤホヤを皆でほおばります。自分のことは後回しで、一生懸命焼いてくれる方、自分の分はあるのに隣の方のよもぎ餅を心配されている方。皆の心が揃うまで待っている方。皆さんの心の温かさを垣間見ながら、楽しいひと時はあつという間に過ぎていきます。

摂食、嚥下障害のある方は、厨房から提供されるよもぎ餅のみじん食、ミキサー食を皆さんと同じようにいただきます。

「ああ、美味しかった!! また、皆で作りますよね。」 (管理栄養士 一柳)